

3 生涯学習・社会教育

基本目標 学びの成果を活かせる生涯学習の推進

基本施策1 生涯学習・社会教育活動の充実

状況	<p>公民館等での事業・講座については、多様化する学習ニーズに対応するため参加者や講師の広がりに向けて取り組んだほか、地域課題の解決や生きがいづくりに資するよう、内容の充実を図った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年（令和2年）4月13日～5月19日にかけて公民館等の貸室の停止を行った。貸室再開以降は、アルコール消毒・換気・三密の防止を呼びかけ、安心して活動できるよう啓発を行った。</p> <p>図書館については、蔵書の整備をはじめ、利用者の多様なニーズに応じた資料の収集や提供、情報の発信、電子図書貸出サービスの試行導入などに取り組んだほか、レファレンス（調査・相談）サービス及び市立小中学校の図書館運営の支援を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年（令和2年）3月2日から5月10日まで図書の通常貸出、館内の図書閲覧に制限を行い、開館を継続した。制限解除後も不特定多数の集まる行事は中止し、館内座席を減らすなどの運営を行った。</p>
主な取組	<p>(1) 公民館等での学習機会の充実</p> <p>(2) 誰もが気軽に利用できる図書館の充実</p>

[評価]

やや遅れ	<p>公民館利用者数は半減したが、生涯学習に係る情報提供として全公民館で発行している学習情報紙の発行部数は継続している。生涯学習センターからの情報紙は、コロナ禍により事業の開催が少なかったため減少している。なお、生涯学習センターではオンラインを活用し、自宅から学習活動に参加する試行を実施。</p> <p>図書館については、コロナ禍にあっても予約図書の貸出や、小中学校等団体向けに貸出しを行うセット貸出、電子図書貸出サービスの貸出は増加した。しかし、感染症拡大防止措置として、不特定多数の集まる行事を中止したことや5月上旬までの館内図書閲覧の制限、館内座席を減らしたことが来館に影響し、目標の図書館利用者数に至っていない。</p>
------	---

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2017(H29) 年度	2018(H30) 年度	2019(R1) 年度	2020(R2) 年度	目標値 2021(R3) 年度
1	公民館利用者数	1,106 千人	1,083 千人	1,033 千人	571 千人	1,145 千人
2	図書館利用者数	1,631 千人	1,595 千人	1,455 千人	1,104 千人	1,800 千人

(項目説明)

- 1：講座への参加やサークル活動、会議等、様々な目的で公民館を利用した人数
- 2：貸出しだけでなく、調べ物や行事への参加等で、図書館へ来館した人数

[今後のアクション]

公民館等では、コロナ禍においても利用者が安心して利用できるよう、会議、サークル活動の開催方法を工夫するなど新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底するとともに、情報提供を行い、利用者の安心感・満足度を充実させる。また、オンラインを活用した講座実施に向け職員の研修や環境の整備を行う。

図書館については、来館を伴う利用を促すことが困難な状況にあるため、コロナ禍においても利用が増している予約図書の貸出、団体向けのセット貸出、電子図書貸出サービスの利用にターゲットを置き、新たな利用者の獲得を図るための情報発信を行うなど、図書館利用者数を注視しながら利用者の満足度を向上させる方向に移行する。

主な取組	公民館等での学習機会の充実		
概要等	課題	今後の方針	
公民館等での学習機会の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ○公民館等において住民の学習ニーズに応えるとともに、現代的課題や地域課題に視点を置き、その解決とまちづくり推進のための講座を実施した。 ○各自治会を単位として、日常生活における様々な人権問題や地域課題等をテーマに、人権意識の向上のため住民相互の学習会を開催した。 ○子育て中の親を対象に、家庭教育の充実に向けて、親子関係をより豊かなものにしていくため、保育所等で『親の力』をまなびあう学習プログラム[※]を活用した出前講座（以下、『親プロ』出前講座という。）を実施した。 ○地域住民の協力を得て、小学校等で放課後等に安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域住民との交流活動や学習等を行っている。 2020年度は26教室実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者や年齢層が固定化傾向にあり、講座内容が学習ニーズに十分に応えるものではなかった。 ○地域課題を人権の視点から捉え、さまざまな人権問題へとつなげていくための学習展開を検討する必要がある。 ○「親プロ」出前講座をより多くの保護者に利用してもらうため、公民館だよりや保護者会等を通して情報提供が必要である。 ○放課後子ども教室[※]では、協働活動サポーター[※]の研修を充実し、教室の安全管理に取り組むほか、参加児童が減少し運営が困難な教室の活動内容の工夫や人材の確保・育成に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代的課題や地域課題の解決に向けて住民の学習意欲を喚起するとともに、関係各課や大学、NPO等と連携して、社会の変化に対応できるような取組を推進する。 ○各地域振興課[※]で、子育てサポーターリーダー[※]の交流会を定期開催し、ネットワークづくりや講座進行に係る情報交換の促進を図る。 ○放課後における子ども達の安心安全な居場所づくりとして、放課後子ども教室の活動を広く市民に周知し、新規開設を増やす取組を行う。 	

生涯学習情報の提供

○生涯学習センターや公民館等で行われる講座等をホームページで公開することで、学習機会の提供を図った。

○生涯学習センター発行の学習情報紙や公民館だよりを定期的に発行することにより、学習情報や地域活動の周知、人権啓発につながった。

○学習情報紙の掲載内容を精査し、読みやすく市民にとって効果的な情報提供となるよう工夫する必要がある。

○学習情報紙以外にも、ホームページによる情報提供を行っているが、アクセス件数が順調に伸びない状況にある。

○市民にとってより効果的な情報提供となるよう関係課との連携により、ホームページを魅力ある内容となるよう工夫を加えることで、幅広い世代に対して情報を発信していく。

実績数値

【公民館の利用状況】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
延べ利用件数	93,573 件	93,545 件	92,051 件	89,687 件	62,950 件

【地域別住民学習会への参加状況】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
参加者数	22,197 人	21,429 人	21,171 人	20,337 人	4,421 人
参加率	17.7%	17.1%	17.0%	16.4%	—

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施にあたって人数制限や会場制限、学習資料を全戸配布し家庭学習におきかえた自治会（町内会）があり、人数等の比較はできない。

【「親プロ」出前講座の参加者の状況】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
参加者数	1,548 人	1,250 人	835 人	1,355 人	178 人

【学習情報紙の発行部数】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
生涯学習センター情報紙	133,763 部	123,969 部	124,680 部	126,000 部	42,040 部
公民館だより	1,353,618 部	1,380,475 部	1,367,520 部	1,343,634 部	1,309,007 部

主な取組		誰もが気軽に利用できる図書館の充実	
概要等	課題	今後の方針	
蔵書の整備			
<ul style="list-style-type: none"> ○福山ゆかりの人物、ばらのまち福山ミステリー文学新人賞※やばらに関する資料を収集し、「福山らしさコーナー」や「福ミスコーナー」で効果的に配置した。 ○雑誌の充実を図るため、閲覧雑誌の最新号のカバー等にスポンサーの広告掲載を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予約状況や市民の要望を把握する中で蔵書を整備する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の充実を図るため、市民の要望の把握に努め、広範かつ体系的に収集するとともに、郷土資料の収集に努め、郷土の情報を広く市民などに発信する。 	
多様な図書館ニーズへの対応			
<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルアーカイブシステムで「広報ふくやま」や新聞の地域版の閲覧ができるよう、順次整備している。 ○レファレンスサービス（調査・相談）や市民のビジネス活動を支援するビジネス相談会や講座等を行っている。 ○電子図書貸出サービスを試行導入し、外国語資料の充実を図った。また来館が難しい住民へ身近に図書を届けるサービスとしてコンテンツを増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館ホームページのほかFacebookなど様々な媒体を活用し、引き続き、館内展示や講座等の情報発信を行う必要がある。 ○ビジネス相談会をはじめとした、特色のあるサービスを引き続き提供する必要がある。 ○外国人と利用が少ない10代へのPRを効果的に行い、利用を促進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究や調査のために必要な資料を提供するほか、日常生活の中でわからないことや調べたいことなどの相談に応じるなど、レファレンス機能の充実を図る。 ○ビジネスセミナーや相談会など、市民のニーズに応じたビジネス支援サービスを実施する。 ○小中学生に電子図書を活用されるようニーズに応じた選書をする。 	
子どもの読書活動の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに読書を親しんでもらうために、図書館職員が学校等に出向いてのブックトークや、お薦め本の紹介などを実施した。 ○小中学校の総合的な学習や、児童生徒の読書活動に向けた図書の貸出しを行った。 ○図書館職員が、学校図書館の環境整備やその運営を行う職員への支援を行うほか、図書ボランティアへの指導・助言等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックトークなどを行う場合に、子どもの興味や学校等の要望を事前に把握する必要がある。 ○学校図書館について、子どもが利用しやすい開館時間の設定や、図書を探しやすい配架など、利用環境の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者やボランティア向けの講演会やおはなし会等を開催するほか、学校等に出向いての本の紹介など、子どもが読書に親しむ環境を整備する。 ○学校図書館の職員等と子ども読書に関する情報を交換する中で、子どもの興味や学校図書館に対する学校等の要望を把握する。 	

実績数値					
【貸出状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
全蔵書冊数	1,174,027 点	1,190,034 点	1,191,541 点	1,188,972 点	1,150,951 点
図書の貸出冊数	3,239,005 冊	3,134,347 冊	3,034,401 冊	2,698,670 冊	2,358,644 冊
図書館のセット貸出	22,572 冊	22,641 冊	24,580 冊	28,114 冊	27,429 冊
予約貸出数【NEW】	403,068 件	397,220 件	403,316 件	397,393 件	488,365 件
【多様な図書館ニーズへの対応状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
レファレンスサービス	7,548 件	8,336 件	8,119 件	8,199 件	5,214 件
図書館ホームページのアクセス件数	1,192,031 件	1,839,241 件	2,208,157 件	2,217,288 件	1,864,990 件
図書館職員の学校等への派遣回数	75 回	73 回	80 回	63 回	24 回
電子図書貸出数【NEW】	—	—	—	—	目標：3,750 点 実績：6,419 点



放課後子ども教室の様子（銭太鼓）



電子図書のPR展示の様子

基本施策2 学習成果を地域で活かせる環境の整備

状況	<p>活力ある地域のまちづくりを推進するため、地域活動や家庭教育支援等に携わるボランティア等の人材が求められており、ボランティアの養成講座等により人材育成を図るほか、団体やグループをはじめ養成講座修了者が学習成果を地域で活かせるよう情報提供や活動機会の提供を行った。</p> <p>また、公民館等を地域の学習交流拠点として、団体や組織、住民同士のつながりが促進され、ネットワークが効果的に機能するよう、情報提供や交流の充実に向けて取り組んでいる。図書館や学校等では「読み聞かせ」などの図書活動を行うボランティア団体・サークルの育成、支援とネットワークづくりを行っている。</p>
主な取組	<p>(1) 地域で活動する人材の育成</p> <p>(2) 学習成果を活動につなげる仕組みづくり</p>

[評価]

やや遅れ	<p>指標は前年度に比べ低下しているが、「親プロ」出前講座へ子育てサポーターリーダーが推進役として参画することで、学習成果を地域活動に還元する機会となっている。</p> <p>また、新たなサポーターを養成する講座により登録者数は増加している。しかし、講座実施数は激減したため、コロナウイルス対策を行いながら実施していく工夫が必要。</p>
------	---

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2017(H29) 年度	2018(H30) 年度	2019(R1) 年度	2020(R2) 年度	目標値 2021(R3) 年度
1	子育てサポーターリーダーの参画率	60.6%	64.0%	67.4%	25.0%	75.0%

(項目説明)

「子育てサポーターリーダー」登録者が、出前講座へファシリテーターとして参画をした割合
(2020年度は登録者84人中21人が参加。)

[今後のアクション]

引き続き、養成講座でボランティアの育成を行う。
新型コロナウイルス対策を行いながら、オンライン等を活用して地域でできる活動方法、団体や組織、住民同士のつながりが促進される仕組みを考えていく。



「親プロ」子育てサポーターリーダー養成講座の様子



「親プロ」講座実施の様子

主な取組	地域で活動する人材の育成				
概要等	課題			今後の方針	
地域で活動する人材の育成					
<p>○「福山防災大学」※「福山ばら大学」※等の各種講座により専門的知識を学ぶほか、さらに「ふくやま・まちづくり大学」※を共通科目に位置付けることで、まちづくりについての意識を醸成し、学習成果を地域社会の中で活かすことのできる人材の育成を図る。</p> <p>○人材バンク「福の山」※等への登録をはじめ、生涯学習センターと連携し、学習成果を活動につなげる機会を提供した。</p> <p>○福山市生涯学習振興基金※から得られる益金の一部を活用して、主体的に生涯学習活動に取り組んでいる市民団体を支援した。活動期間は短いものの、公共性・社会性の高い活動を行っている団体に対し支援することで、生涯学習活動の活性化につながった。</p> <p>○「親プロ」出前講座で進行役を担う人材を育成するとともに、講座修了者を対象にフォローアップ研修を実施し、ボランティア活動の機会の少ない人のスキルアップにつなげた。</p>	<p>○各種講座修了者が活動を継続するためにも、企画段階で講座修了後の学習成果の活用を意識した内容となるような講座の実施が必要である。</p> <p>○講師によって派遣回数に偏りがある。派遣実績の少ない講師への対応を考えていく必要がある。</p> <p>○申請団体数が減少傾向にあり、制度について広く周知する必要がある。</p> <p>○特定の子育てサポーターリーダーに負担がかからないよう、ボランティアの少ない地域で人材育成を図るほか、活動について広く参画を促す必要がある。</p>	<p>○学習成果を地域活動の中で実践できる人材育成を行うことで、学びの循環を図る。</p> <p>○びんご人材ネットワーク「まなびんご」を活用した備後圏域を対象にした人材ネットワークへ移行。</p> <p>○申請件数の増加に向けて、学習情報紙やホームページ等を通して制度の周知を図る。また活動費の補助に加えて、補助金交付団体の活動内容の周知や活動支援を行う。</p> <p>○子育てサポーターリーダー養成講座修了者に対して、研修の機会や家庭教育に関する情報を提供し、「親プロ」出前講座の運営を円滑に進めるためのスキルアップや、講座修了者のネットワークづくりを継続的に支援する。</p>			
実績数値					
【ふくやま人財大学※の受講状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
延べ受講者数	2,141人	2,767人	2,690人	2,132人	622人
2016年度から開催					
【生涯学習振興基金活用の状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
補助金交付団体数	15団体	10団体	10団体	7団体	5団体

【「親プロ」養成講座等の参加状況】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
子育てサポーターリーダー養成講座修了者数	17人	7人	11人	9人	8人
子育てサポーターリーダーフォローアップ研修参加者数	16人	30人	33人	13人	— (未実施)

【「親プロ」ファシリテーター登録人数・延べ活動人数】【NEW】

区分	2016	2017	2018	2019	2020
子育てサポーターリーダー養成講座登録人数 (活動可能人数)	89	86	75	83	84
子育てサポーターリーダー延べ活動人数	300	190	166	174	33

※年間数名，登録を削除・休止される方がいる。

主な取組	学習成果を活動につなげる仕組みづくり				
概要等	課題			今後の方針	
公民館等での学びのネットワークづくり					
<p>○地域の学習の交流拠点として、団体や組織、また、住民同士のつながりを促進し、地域の教育力を高めていくため、地域における学びのネットワークづくりを推進する。</p> <p>○公民館等で活動しているグループ・サークルの紹介やインターネットを通じた講座等の情報提供を行うことにより、学習機会の提供につながっている。</p>	<p>○各グループ・サークル間の交流を図るとともに、地域住民に対して活動内容が周知されるような取組が必要である。</p>			<p>○公民館等で行われているグループ・サークルの活動が、地域活動に広く還元されるような関係づくりに取り組む。</p>	
学びのネットワークの支援					
<p>○生涯学習に関するさまざまな知識や技能を持つ市民を派遣講師として登録し、学習サークルや団体など利用者の学習ニーズに応じて、住民の多様な学習機会を支援する。</p> <p>○各生涯学習センターが地域住民や団体との協働で開催する「生涯学習フェスティバル」において、参画する団体やボランティア間でネットワークづくりが図られ、学習成果を発揮する場になった。</p> <p>○読み聞かせ講座受講者に、図書館やボランティア団体等の読み聞かせの状況を説明した。</p>	<p>○生涯学習講師派遣事業の活用促進を図るため、広く周知する必要がある。</p> <p>○各種イベントにおける一過性のボランティアであり、継続的な活動や地域活動に還元できていない。</p> <p>○読み聞かせ講座受講後に、受講者が活動できる支援を行っていく必要がある。</p>			<p>○ボランティアなどが地域で活動できるよう、地域ニーズに即したマッチングを行い、ボランティアやグループ・サークル、NPO等の活動が、地域活動に広く還元されるよう取り組む。</p> <p>○受講者が習得した知識や技能を活かした活動ができるよう、関係団体との連携を図る。</p>	
実績数値					
【公民館グループ・サークルの状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
公民館グループ・サークル数	1,849	1,828	1,812	1,805	1,792
【人材バンク「福の山」の状況】					
区分	2016	2017	2018	2019	2020
登録人数	62人	61人	67人	57人	58人
派遣回数	42回	60回	68回	54回	20回